

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271300297
法人名	有限会社 ふるさと
事業所名	グループホーム 古里の丘
所在地	〒854-0204 長崎県諫早市森山町田尻944番地 (電話) 0957-36-2519

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217番地 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(H19年 10月 25日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤	4人, 常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	66歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤原医院 ・ 清水歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある築80年の古い民家を改築したホームで、玄関周りやホーム内には民家の趣をそのまま残しており、家庭的な雰囲気がある。小動物と一緒に生活し、庭先の畑には野菜や花が植えてあり、入居者の方々の楽しみにもなっている。年間行事の中に餅つきや花見・ドライブを家族・地域の方々の誘って出かける等、地域との関わりを積極的に持たれている。訪問介護事業も展開され、他にも少し離れた場所にグループホームがもう一棟あり、入居者の方々の交流がある。月1回の全員参加の定期会議や研修会の開催、外部の研修会にも参加する等、自己研鑽の場の提供がなされており、職員の熱心な介護により、安心して穏やかに生活されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後は全員で検討を行い、改善計画シートを作成し構造上の問題点は季節により変化を取り入れ、カーテンや小窓をはずす等、可能な限り対応を考慮しながら、積極的に取り組まれており、評価を有効に活かす取り組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員が前向きに意見を出し合い、それぞれの意見を踏まえた報告書を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年4回(3ヶ月に1回)程度開催されている。家族の代表・諫早市職員・地域住民代表・法人代表・ホーム管理者の主席により、行事や現状の状況報告・質疑応答を織り込んだサービスの向上に向けた会議を開催している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の家族との面談、手紙、電話等、家族からの苦情や相談を直接職員が受け付けており、より良いサービス提供、質の向上に向け取り組まれている。今後は、便りの活用を含め、今一度傾聴の体制のあることを利用者の家族にアピールされる事を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	住宅地の中にホームがあり、日々の散歩時に近所の人々と挨拶を交わす環境ができており、町内会に加入しており、市政だよりの配布や回覧板等、地域住民の方がホームへと届けられたり、また、地域住民の方の行事(餅つき・花見等)への参加があり、地域との交流を積極的に行なっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住宅地の中にあるホームで地域とのつながりを持てる良い環境の中にある。「人権の尊重・温もりと穏やかな笑顔の追求・喜怒哀楽の共有」という理念を定めており、入居者と共に暮らし、共に感情を共有する中で、その人らしい生活を支える事ができるよう日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の介護に対して笑顔で接し、個々人の意思の傾聴に努め、ミーティング等で具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、地域の行事に出向いたり、ホームでの行事に参加してもらったりと利用者と地域住民の方との交流を深めている。また、中学生の職場体験学習の受け入れも行っており、積極的な地域との関わりがもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後は全員で検討を行い、改善計画シートを作成している。構造上の問題点は季節により変化を取り入れ、カーテンや小窓をはずす等、可能な限り対応を考慮しながら、積極的に取組まれ、評価を有効に活かす取り組みがある。又、今回の自己評価は職員全員が前向きに意見を出し合い、それぞれの意見を踏まえた報告書を作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年4回(3ヶ月に1回)程度開催されている。家族の代表・地域住民代表・市職員・法人代表・ホーム管理者の出席により、行事や現状の状況報告・質疑応答を織り込んだサービスの向上に向けた会議を開催している。		

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員から相談を受けたり、また、ホーム側からの相談もあり、積極的に情報提供や情報の共有(ホームの空き情報提供等)に取り組む連携体制が整っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	病院受診や月1回のホームだより配布、また個別写真の提供、出納帳への家族確認が確実に実施されており、家族への報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の家族との面談、手紙、電話等、家族からの苦情や相談を直接職員が受け付けており、より良いサービス提供、質の向上に向け取り組まれている。		現在、家族と密接に話し、意見や要望を聞き取る事に努力されているが、今一度、便りに「何時でも気軽に言われる事をお待ちしてます」や「今までにこんな意見や要望がありました」等を載せることで傾聴の体制をアピールされる事を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表、管理者、職員は、職員の異動や離職による入居者の精神的負担を十分に理解すると共に、新人職員と利用者のふれ合いの場を多くして、早く馴染み合えるよう配慮されている。家族にはホームだよりで職員の異動を伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を行い、会議にて情報を共有しあい、日々のケアを通して職員のレベルの統一に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中での他のグループホーム、またグループホーム連絡協議会の研修会に参加し、積極的に交流の機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者・家族との面接を行い、ホームの見学をしていただき、職員や他の入所者の生活に触れ、本人が納得してから利用していただくように配慮している。利用当初はなるべく職員の声かけを多く持って、不安や緊張を取り除く等の支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生経験の豊富な先輩であるという考えを職員が持ち、共に学び支えあう関係として謙虚な姿勢で関わっている。また、野菜作りや調理方法を教えて貰う場面が多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>畑作りが好きな利用者のための家庭菜園があったり、個々の生活歴や趣味に配慮し、意向の把握に努め、入所者が出来る事を見守りながら、不足の部分を支援する関係作りがなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時にアセスメントを十分に行い、日々の細かい暮らし方について入居者本人・家族の意向を反映した、個々の介護計画作りがなされている。しかし、介護計画の書式に家族の同意欄がない。</p>		<p>計画は援助内容を詳細に記述されているが、入居者主体に作成された計画書を家族に説明し、同意を記述する欄を設けた書式の作成が期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスは個別に問題点を把握して、見直しシート(課題抽出分析シート)により実施している。6ヶ月を期間とし、又、状況の変化に応じて同様に見直し実施をしている。</p>		

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携や往診・受診介助・通所リハビリ・訪問美容サービス・家族の行事に同行を行っており、入居者の家族がホームに泊まる事も可能である。また、ターミナルケアも行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関とは密接な関係で、通院・往診が実施され、個別に受診ノートを作成されている。緊急受診の際には家族との連絡を取る等の対応が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム利用契約時に十分に説明を行い、希望に応じて看取りの指針に署名同意を貰っている。現時点では重度化・終末期に該当する方はいないが、夜間緊急連絡網等の整備もなされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者や家族への言葉掛け・介護時において、全職員は常に入居者への対応に十分配慮を行なっている。記録台帳の保管にも注意をしており、プライバシーに配慮して適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程、行事予定はあるものの、一人一人のペースを尊重した支援や関わりに配慮している。体調により食事や就寝時間が様々であるため、本人・家族の意向を反映し安全を配慮して支援を行っている。		

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けは入居者と一緒に行なわれ、ホームの菜園から採った作物を使用して旬を感じ、収穫の喜びを楽しんでいる。職員は食事介助をしながら同じ食事を一緒に味わっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金が入浴日となっているが、入居者の体調やペースに合わせて他の曜日の利用も行なう事が出来るようになってきている。また、清拭やシャワー浴、足浴も行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活で行なう事が出来る範囲の食事の準備や後片付け、菜園作り、散歩等は入居者の希望に合わせて支援を行っている。また、近場にある足湯へ出かけたり、花見や買い物、ドライブ等、一年を通じて行事計画を立て、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、足湯、散歩、他ホームへの訪問、ホームの庭で食事会等、入居者の希望に合わせて外出の支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみである。職員は鍵をかけることで生まれる閉鎖的な空間による心理的な弊害を理解し、玄関は常に開錠している。また、職員同士の声かけや見守りが行なわれ、入居者の動向を把握し、危険がないように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの下、防災訓練を行なっている。近所の人とも関わり合いを持ち、緊急の時は協力を得られるよう働きかけを行なっている。古民家であるので放火の危険を回避する為、防災訓練の際に消火器の使用方の指導を受けている。しかし、地震や水害を想定した訓練は無く、非常時の備蓄はされていない。		災害を様々な方面から想定し、地震や水害を想定した訓練の実施や、備蓄品(水・食料・寒さを凌げる物品等)や非常時の持ち出し品の把握をされる事を期待したい。

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に配慮されており、カロリーにも注意されている。疾患に合わせた食事も提供され、普通食からミキサー食まで、個人に応じた食事提供がなされており、水分量や食事量のチェックの記録がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには掘りごたつがあり、昔を思わせる造りになっている。嫌な臭いや騒音はなく、玄関には花を活けており季節感が感じられた。また、小動物が共同生活をしており、癒しの存在となっている。		築80年の借家である点から様々な工夫が随所に見られるが、居間を除いた何ヶ所かは暗い場所があり、可能であれば今一度話し合いにより、工夫される事を期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが居室ヘタンスや仏壇、鏡台、備品等を持ち込んでおり、入居者にとって居心地よく過ごせる空間を持つよう、自由に持ち込み可能となっている。		